

# みどりのゆび

諏訪中央病院グリーンボランティア通信 No.112号 2019年11月6日発行



## 10月19日に病院祭

低気圧と前線の影響で天気が危ぶまれ、屋根のある「こもれび」での開催かと思われたのですが、開始時間が近づくと雨もあがり、物置小屋隣のガーデンテーブルで行うことができました。東西のガーデンのつなぎ目で、通りがかりに覗いて下さる人も多く、ハーブティとブラックベリージャムの試食も好評で、ドライハーブとジャムの売り上げは13,350円になりました。また、掲示板にバザーやハロウィン祭、普段の庭作業などの写真を貼り、グリーンボランティアの活動を紹介しました。ご参加下さった皆様、ありがとうございました。[入江]

## ハッピー ハロウィン

今年の不機嫌な気象のせい、10月25日(金)に小雨の中での開催になりました。病院側のご厚意で院内と陽だまりとの二か所でのスーパの振る舞いとなりました。子供たちはトリートに、大人達はランタンの幽玄な雰囲気にとらわれていたひと時でした。[伊勢]



\*\*\* 総務課広報係の土井さんに寄稿いただきました \*\*\*

ちょっと肌寒くなる季節の夕方に、いつもとは雰囲気が異なるハーブガーデンでのハロウィンは個人的にも大好きなイベントです。病棟や各職場から患者さんもスタッフもパンプキンスープを求めて庭に出てくる。そこには普段はないかぼちゃのランタンに火が灯り、つかの間の異空間を楽しんで、また戻っていく。病院祭を除けば、ハーブガーデンが一番賑わう時かもしれません。



土井さんの作品

そんなハロウィンのランタン作りを、グリーンボランティアの皆さんを初め、病院スタッフも作っていると知り、自分も3年前から参加させてもらっています。衣装した子供たちがそれぞれ可愛いように、ランタンも面白いものがあれば、と少し変わったものを作っています。今年はちょっと細かすぎたので、来年はもう少し大ざっぱなものにしようと思います。[土井]

## これからのイベント

- 11月13日(水) リース作り
- 11月20日(水) 秋のバザー (10~12時) (+ランチ)
- 11月27日(水) 後片付け (+パエリアのランチ)
- 12月4日(水) 反省会 (ランチの提供なし)



## 鉄平石のアプローチ完成

陽なたぼっこの入口へのアプローチの木材の手すりと階段が長い年月を経て腐食したため、この度取り壊され、約30枚の鉄平石が敷かれたアプローチに生まれ変わりました。石と石の間にはタイムが植えられました。

「ボランティアのメンバーが高齢化しているので、今後のメンテナンスのことも考え、木材でなく、鉄平石にしました。一番大きな石で50キロ近くありました。皆さんで石の上を歩いて、土となじませてください。」と製作に携われたメンバーの桑折清さんのお話。



### コラム No.9

### 東日本大震災のその後を辿って

9月の末、夫のかつての職場のOBとその妻、計10名で年に一度のOB会、今年は被災地の一部を訪ねました。

まずは各地から各々仙台に。櫛並木の定禅寺通りを抜け、青葉城址へ。はるかに海方向を望んだ時、8年余り前のこの世のものとは思えぬ映像が蘇り、思わず手を合わせました。続いて日本三景の一つ松島へ。260余の島々が浮かぶ風光明媚な松島湾一帯は、その島々が自然の防波堤となり、幸い甚大な被害は免れたとのこと。その後、海沿いの6号線を南下し、震災遺構として残る仙台市立荒浜小学校へ。屋上へ避難し、全員助かったものの、2階まで津波が襲い、その爪痕は今も生々しく、後に掲げられた「ありがとう荒浜小学校」の垂幕に目頭を熱くせずにはいられませんでした。

閑上地区、伝承鎮魂記念館、浪江町を経て、東京電力廃炉資料館ではその重々しい空気に事の重大さをつきつけられ、未だ帰還困難区域の双葉町一帯はしんと静まり返り、生い茂った草むらからすすり泣きが聞こえてくるようでした。行き場のない大量の汚染土の黒いビニール袋、増え続ける汚染水等々、多くの難題を抱え、「アンダーコントロール」などとは到底言い難い現実。大地震、猛烈な台風が頻発する近年。せめて人災だけはなくしたい。“ノーモア原発！”真に美しい地球を、と願うばかりです。



安達太良山にて  
ナナカマドと青空



旅の最後に夫と2人、高村幸太郎の妻、智恵子の故郷、福島県の安達太良山に登り「本当の空」を360度仰ぐことができました。[南波]